

令和5年度 事業報告

社会福祉法人 英楽会

令和5年度 事業報告

I 概要

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が急速に緩和される中で、感染防止対策を実施しながら停滞していた事業への着手や拡充を進めることとなり、特に、中長期的な安定運営等を図るための在宅支援事業の拡充と悪化した収支の改善を大きな柱として、様々な事業に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症については、昨年11月から今年3月にかけてご利用者様や職員が感染したものの、いずれも重症化することなく収束しました。また、2月から3月にかけてはノロウイルスによる感染が拡がりましたが、こちらも重症化する方はみえませんでした。こうした感染症が発生している際にも、できる限り事業を継続するとともに、面会も工夫して行いました。

新規・拡充事業については、ご利用者様の事故防止や職員の負担軽減等を図るため、新たに特養本館に見守り支援機器を導入したほか、看取りケアの更なる充実を始めとした処遇向上策に取り組みました。

また、在宅支援事業の拡充策として、デイサービスセンターの利用定員を7月から5名増やして35名にしたほか、居宅介護支援事業所のケアマネージャーを1名増員し3名体制にするとともに、ショートステイのご利用者様にアンケートを実施しサービスの向上と利用者確保にも努めました。

さらには、職員の離職防止や働きやすい職場づくりの一環として、メンタルヘルスに関し全職員にセルフケア、役職者にはラインケアの研修を実施するとともに、ストレスチェックの結果を踏まえた新規職員への定期的、継続的なヒアリングの仕組みも構築しました。

一方、給湯設備やトイレ等老朽化した設備の改修を進めるとともに、消耗品の見直しを始めとしたきめ細かな物価高騰対策にも努めました。

このように、令和5年度は、多くの新しい取り組みをスタートさせた年だと言えます。

令和6年度は、面会制限を大幅に緩和する中で、さらに実効性のある感染防止対策を実施しつつ、地域から信頼される施設づくりをめざし、在宅支援事業の拡充や経営改善など令和5年度からの取り組みを一層発展させ、事業計画に基づいた取り組みを着実に進めます。

II 令和5年度事業計画への対応

注：「今後の方針等」の □内は、令和6年度事業計画における項目番号

(1) ご利用者様へのサービス向上

事業計画における「主な実施事業」	進捗状況	主な取り組み	今後の方針
① ご利用者様への処遇を一層向上させるため、以下の取り組みを強化する。			
ア 看取りケアの質の向上を図るため、令和4年度に学んだACPに関する知識をさらに深めるとともに、意思決定支援に必要な様式の作成と、従前からの諸様式の再検討を進める。	実施中	施設内の研修でACPの知識を深めるとともに、意思決定支援のため意思決定シートを作成し、意思を示すことが可能な利用者様に活用を開始した。また、看取りケア振り返りシートの項目を見直すことで、振り返り会議の内容を充実させた。	継続する (1)②イ
イ 「ケア向上チーム会」を活用し、引き続きケアの質の向上に努める。	実施中	特養本館ではケア向上チーム会を定例化し、ポジショニング、食支援など広くケアの質の向上に努めた。	継続する (1)①イ
ウ 生活の質等向上委員会での検討結果を踏まえ、ご利用者様の健康と生活の質の向上のために、レクリエーション等の取り組みをさらに工夫し充実させるとともに、ボランティアの受け入れを再開する。 a ケアハウスでは、Wi-Fi環境を整え、ネット配信を活用したレクリエーションを企画する。 b 特養では、音楽療法の再開に向けた検討を行う。	実施中	外部ボランティアの受け入れに関しては、感染リスクのため積極的な活動がしにくい状況が続く中、限定的ではあるが特養では看護師資格を有するボランティアを受け入れ、認知症高齢者向けのレクリエーションを実施したほか、デイサービスでは、高校生のダンス部や地域のチェロサークルの方を受け入れた。 ケアハウスではWi-Fi環境を整え、オンラインでの紙芝居、昭和の懐かしい歌・映像を使用したレクリエーションを実施した。 特養での音楽療法については、看護師が中心となり実施した。	継続する (1)①ウ (1)②ア (5)⑤
エ 事故防止対策として、個々の事故の原因分析や対策の実施に加え、よりきめ細かなヒヤリハットの作成を徹底するとともに、一定期間内における各フロアや全体での傾向等について、迅速に分析し対策を講じられる仕組みを検討する。また、誤薬事故防止対策会議を継続する。	実施中	令和4年の事故件数とヒヤリハット報告件数の比は1:1.3であったが、令和5年は1:1.0となり、ヒヤリハット報告件数が減少した。要因は、南館においてヒヤリハットが多かったご利用者様の退居、職員の報告件数の減少であった。 1か月毎に各フロア、ユニット単位で分析を行い、速やかに対策を検討し実施した。 誤薬事故防止対策を継続した結果、主に下剤に関する誤薬事故について昨年度より10件減少した。	取組方法を変更して継続する (1)②エ

オ 特養南館ではシーティング等の介護技術のスキルアップ、特養本館ではご利用者様のADLの維持に向けた取り組みを実施する。	実施中	特養南館では、オンデマンド配信を活用し、職員が各自でシーティングについて学ぶ機会を設けた。特養本館では、ケア向上チーム会を定例化し、必要にご利用者様のポジショニングについても検討することで、ADL維持に取り組んだ。	継続する (1)①イ (5)⑤
カ 多様化のご利用者様、ご家族様のニーズに応じた相談支援を的確に行えるよう、相談員、ケアマネジャーの相談支援技術の向上に努める。	実施中	相談員、ケアマネジャーは、相談援助業務やカスタマーハラスメント、メンタルケアの研修のほか、緑区相談支援機関研修にて、地域における困りごとに対応するための重層的支援について学んだ。	新たな計画に移行する (3)①
キ デイサービスセンターにおいて、試行的に実施した「半日型デイサービス」と「理容サービス」を本格実施するとともに、ご利用者様のニーズに合わせたサービス提供をさらに進める。	実施中	半日デイサービスは、令和6年3月単月で延べ82名の利用となり、開始当初と比べ2.5倍に増加し、理容サービスも3月単月で10名が利用され、開始当初と比べ2倍に増加した。また、ご利用者様の心身の状態や、趣味嗜好などの共通点を見つけ、快適に過ごせるようにフロアのレイアウトや座席の配置を工夫した。なお、利用増加に伴い、7月から定員を30名から35名に増員した。	継続する (5)②
② 見守り支援機器の導入に向け、デモンストレーションの実施、補助金の活用、インフラ整備などの準備を進める。	完了	特養本館にて、インフラを整備し、見守り支援機器を導入した。	完了
③ 南館の給湯設備を順次更新するなど、老朽化した設備の計画的改修に努めるとともに、より良い生活に必要な設備の改修や物品を導入する。	実施中	老朽化した南館の給湯設備とトイレ設備を修繕するとともに、Wi-Fiの導入、デイサービストイレの扉の新設など、ご利用者様のより良い生活に寄与するよう改修を行った。	新たな計画に移行する (1)③

(2) 安定した経営の推進

事業計画における「主な実施事業」	進捗状況	主な取り組み	今後の方針
① 空床期間の短縮のために必要な体制を整えるとともに、全ての部署において営業活動を実施する。	実施中	入所申込者の情報共有や受け入れ手続きの円滑化に向けた定例会議を開催したほか、近隣居宅介護支援事業所および病院、老人保健施設等へ訪問し、営業活動を行った。	継続する (2)②
② 特養において、各部署が協力し科学的介護推進体制加算を取得するとともに、褥瘡マネジメント加算等の新たな加算取得を検討する。	完了	令和5年6月より、科学的介護推進体制加算と褥瘡マネジメント加算を算定した。	新たな計画に移行する (2)①

③	令和6年度の介護報酬改定に関する情報収集に努め、必要な対応を検討する。	完了	情報収集し、新たな加算の取得に向けた対応等を検討した。	完了
④	自然災害BCP（事業継続計画）を活用するための研修を企画するとともに、地震や火災等の災害に備え、消防署等と連携し実践的な訓練を実施する。	実施中	緑消防署と連携し、机上訓練を行うと共に、緑消防署のアドバイスを得ながら能登半島地震を踏まえた自然災害BCPの改定を行った。	継続する (1)④
⑤	光熱費や食材を始めとした物価高騰に対応するため、商品の見直しを行うなど、納品業者、委託給食会社等と協議しつつコスト削減に努める。	実施中	ペーパータオル等の消耗品を、より安価な代替え品に切り替えたほか、納品方法を見直すことで発注を効率化し、全体的なコストを削減するように努めた。	継続する

(3) 新型コロナウイルス感染防止対策の充実

事業計画における「主な実施事業」	進捗状況	主な取り組み	今後の方針
① 新型コロナウイルス感染症の5類への変更など、国や県の指針に沿って新型コロナウイルス感染症BCP（事業継続計画）を適宜見直すとともに、クラスター発生時の初動訓練を行い、施設内の感染拡大防止に努める。	実施中	年度当初より、全てのフロアリーダーに初動訓練を実施した。その結果、本館2階のクラスター時、職員の感染者は数名であり、本館3階へ拡大しなかったほか、南館3階では、利用者1名の感染で留め、クラスターを防ぐことができた。また、クラスター時の振り返りを行い、BCPの修正を行った。	継続する (1)①カ
② 新型コロナウイルス感染症に対する社会の認識と感染状況の変化を踏まえ、ご家族様の気持ちに寄り添う面会方法を適宜検討し実施する。	実施中	クラスターが発生する中でも、全館閉鎖することなく、面会の継続を行った。また、今後の面会制限緩和に向けた方策をまとめた。	継続する (1)①カ
③ ケアハウスにおいて、中等症以上の陽性者が入院できない場合に備えた手順書を作成する。	完了	入院までの必要な手順と、入院に至らない場合の対応手順をまとめた。	完了
④ デイサービスセンターにおいて、陽性者が発生した場合等の緊急連絡が速やかに行えるよう、アプリ等の活用を進める。	完了	緊急連絡アプリを試験的に利用したが、高齢のご利用者様・ご家族様が内容を確実に理解していただけたかの確認と、その後のサービス利用の意向等の確認が必要なため、直接電話により連絡する方法がふさわしいとの結論に至り、導入を見送ることとした。	計画を見直す

(4) 人材育成・確保と働きやすい職場づくりの推進

事業計画における「主な実施事業」	進捗状況	主な取り組み	今後の方針
① 人材確保育成科長および研修委員会を中心に、メンタルヘルスに関する研修を新たに実施する他、外部講師による研修などリーダーを対象とした研修を一層充実させる。	完了	職員全員を対象にメンタルヘルスクエアの研修会を実施した。また、リーダー級以上には外部講師によるマネジメント研修を実施した。	継続する (3)①
② 令和3年度に試行実施した人事評価制度を本格実施し、職員の意欲と資質の向上を図るとともに、勤勉手当への反映方法など評価制度の活用を進める。	実施中	全部署で一般職員の人事考課を実施し、勤勉手当へ反映させた。	継続する (3)③
③ 外部委託によるストレスチェックを継続し、必要な対策を講じるとともに、より効果的な実施方法や活用を検討する。	実施中	外部委託でストレスチェックを行い、昨年度との比較を行った。また、性別、年齢別等で分析を行い、科長にフィードバックするとともに、新入職員への定期的な面接等の支援策を構築した。	継続する (3)①
④ 年末年始の保育室の設置や家賃補助等を継続する。	実施中	保育室は延べ18名の利用があった。家賃補助制度の利用職員は令和6年3月時点で前年度末3名から5名へ増加した。	継続する (4)④

(5) 在宅支援の充実と地域との連携

事業計画における「主な実施事業」	進捗状況	主な取り組み	今後の方針
① 地域の高齢者が利用しやすいショートステイとなるよう、運営方法やサービス内容を見直すとともに、地域の居宅介護支援事業所との連携を強化する。	実施中	ショートステイご利用者様・ご家族様にアンケートを行った結果、利用時の持ち物準備に負担を感じる声が多く寄せられたため、希望するご利用者様には義歯ケース、歯ブラシ等を施設で用意し利便性の向上を図るとともに、衣類・タオル等も施設で準備が可能か検討を開始した。感染流行時に、当施設で利用中止となった際に、周辺施設においてもサービスの中止が相次いだため、居宅介護支援事業者や他事業者と連携を図り、代替サービスの提供に努めた。南館のショートステイ空床利用についても検討を開始した。また、ケースに応じて居宅介護支援事業所、他事業者と連携し、ショートステイ利用者の状況に応じた緊急時対応フローチャートを作成し、支援しやすい環境を整備した。	継続する (5)③

<p>② 介護保険制度改正に伴う通所介護と訪問介護を組み合わせた新たなサービスについて、情報を収集し必要な準備を進める。</p>	<p>完了</p>	<p>令和6年度介護保険制度改正の情報収集に努めたが、国の検討で複合型サービスの創設は見送られた。</p>	<p>完了</p>
<p>③ 居宅介護支援事業の体制を強化する。</p>	<p>実施中</p>	<p>居宅介護支援事業所ケアマネジャーを7月に増員して3人体制とし、受け持ち利用者数を拡大した。</p>	<p>継続する (5)①</p>
<p>④ 在宅サービスを総合的に強化、推進するための体制を整備する。</p>	<p>完了</p>	<p>地域のニーズを、在宅サービスの強化や施設サービスの改善等に活かせるよう在宅支援室長を配置した。</p>	<p>継続する (5)①</p>
<p>⑤ 地域の高齢者の困りごと等に積極的にかかわるため、「高齢者いきいき相談室」を設置する。</p>	<p>実施中</p>	<p>令和5年度より「高齢者いきいき相談室」を緑区南部いきいき支援センターより受託し、ご自宅での介護の悩み等について、のべ11件の相談を受け、電話や訪問にて対応した。</p>	<p>新たな計画に移行する (5)④</p>
<p>⑥ リニューアルしたホームページ（インスタグラム）を活用し、地元の方々と協議のうえ地域の活動や魅力の発信を図るとともに、社会福祉協議会からの情報収集や地域団体との信頼関係の強化に努める。</p>	<p>完了</p>	<p>地域の関係者の方にご協力いただき、「大高まつり」に参加したほか、いきいき支援センター等が主催した市民向けの認知症啓発イベントに参加した。また、当日の様子をインスタグラムで発信した。</p>	<p>継続する</p>

Ⅲ 会議等の開催

1 評議員会の開催

(1) 第94回評議員会 令和5年6月23日(金)

(決議事項)

第1号議案 新理事・新監事の選任について

第2号議案 令和4年度決算資料の承認について

(報告事項)

ア 令和4年度事業報告について

イ 新型コロナウイルス感染対策の概要について

(2) 第95回評議員会 令和6年3月27日(水)

(報告事項)

ア 令和5年度補正予算について

イ 令和6年度事業計画について

ウ 令和6年度当初予算について

エ 感染症発生状況及び感染対策の経過(概要)

オ 職員の採用状況について

(その他)

ア 令和6年度評議員会・理事会開催日程について

2 理事会の開催

(1) 第106回理事会 令和5年5月24日(水)

(決議事項)

第1号議案 令和4年度事業報告について

第2号議案 令和4年度決算資料の承認について

第3号議案 職員就業規則の一部改正について

第4号議案 パート職員就業規則の一部改正について

第5号議案 新理事・新監事候補者について

第6号議案 役員賠償責任保険契約の締結について

第7号議案 定時評議員会の招集事項について

(報告事項)

ア 新型コロナウイルス感染対策の概要について

(2) 第 107 回理事会 令和 5 年 6 月 23 日 (金)

(決議事項)

第 1 号議案 理事長及び副理事長の選定について

(3) 第 108 回理事会 令和 5 年 12 月 13 日 (水)

(決議事項)

第 1 号議案 令和 5 年度補正予算について

第 2 号議案 見守り支援機器の導入について

第 3 号議案 職員給与規程の一部改正について

第 4 号議案 令和 5 年度上半期理事長及び副理事長の職務執行状況報告

(報告事項)

ア 令和 5 年度上半期事業実績報告について

イ 新型コロナウイルス感染防止対策について

(4) 第 109 回理事会 令和 6 年 3 月 27 日 (水)

(決議事項)

第 1 号議案 令和 5 年度補正予算について

第 2 号議案 令和 6 年度事業計画について

第 3 号議案 令和 6 年度当初予算について

第 4 号議案 役員賠償責任保険契約について

(報告事項)

ア 感染症発生状況及び感染対策の経過 (概要) について

イ 職員の採用状況について

(その他)

ア 令和 6 年度評議員会・理事会開催日程について

3 入所検討委員会の開催

- (1) 開催日
- | | |
|-------|----------------------|
| 第 1 回 | 令和 5 年 4 月 20 日 (木) |
| 第 2 回 | 令和 5 年 5 月 18 日 (木) |
| 第 3 回 | 令和 5 年 6 月 15 日 (木) |
| 第 4 回 | 令和 5 年 7 月 20 日 (木) |
| 第 5 回 | 令和 5 年 8 月 17 日 (木) |
| 第 6 回 | 令和 5 年 9 月 21 日 (木) |
| 第 7 回 | 令和 5 年 10 月 19 日 (木) |
| 第 8 回 | 令和 5 年 11 月 17 日 (木) |
| 第 9 回 | 令和 5 年 12 月 21 日 (木) |

第10回 令和6年1月18日(木)

第11回 令和6年2月15日(木)

第12回 令和6年3月21日(木)

(2) 出席者 後藤道夫委員(第三者委員)

統括施設長、南館施設長、生活相談員、看護部次長、介護部次長
介護部科長

(3) 内容 入所候補者名簿の確定、入所予定者の選定

IV 事業別報告

1 特別養護老人ホーム楓林花の里

[施設種別] 介護保険法による指定介護老人福祉施設	[定員]	84名
介護保険法による短期入所生活介護	[定員]	16名
介護保険法による介護予防短期入所生活介護		

特別養護老人ホーム従来型、ショートステイにおいては、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、地域社会の一員として健やかで、安らぎのある生活を送れる場を提供するとともに、多様な社会福祉ニーズに対応できるよう経営基盤の強化・安定化を図ることを目的としてつぎの事業を実施した。

- ・ 日常生活における食事・入浴・排泄の支援援助
- ・ 健康の維持管理・機能回復訓練
- ・ 個人の特性に着目した介護計画の作成、実践
- ・ 職員の資質向上のための各種研修への参加
- ・ 職員の育成・教育体制の強化
- ・ ユーザー評価の実施

(1) 職員の状況（令和6年3月31日現在）

① 職種別職員配置

	施設長	ケア統括部長	事務	ケアマネ	栄養士	看護職	相談員	介護職	支援員	清掃等	計
常勤	1	1	3	2	2	4	1	32	2		48
非常勤					1	2		7	1	6	17
計	1	1	3	2	3	6	1	39	3	6	65

※ ショートステイ職員は上記表中の介護職（常勤）のうち4名、看護職（常勤）のうち1名

※ ケア統括部長と栄養士は兼務

※ 介護職（非常勤）のうち2名は派遣職員

※ 栄養士（常勤）1名と介護職（非常勤）2名は育児休業中

② 職員採用・退職状況 ※法人の全体数、派遣職員含む。

	採用	退職
常勤	19	13
非常勤	12	8
計	31	21

※常勤採用のうち3名はパート職員を正規職員へと登用したもの

(2) 入所者概要（特別養護老人ホーム）定員84名

① 月別入退所状況

※在籍者数は月末現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	2	1	4	3	3	0	1	2	2	0	2	2	22
退所	2	2	3	2	0	1	1	3	0	1	3	0	18
在籍	80	79	80	81	84	83	83	82	84	83	82	84	

※令和4年度 入所 年間 25名 退所 年間 28名

② 年齢別入所状況（令和6年3月31日現在）

年齢	男	女	計
64歳以下	0	0	0
65～69歳	1	0	1
70～74歳	1	2	3
75～79歳	1	4	5
80～84歳	4	21	25
85～89歳	2	13	15
90～94歳	0	24	24
95～99歳	0	9	9
100歳以上	1	1	2
計	10	74	84
平均年齢	83.6	88.3	87.7

※最高年齢 男 107歳 女 103歳

※令和4年度平均年齢 男 82.8歳 女 86.9歳 全体 86.4歳

③ 介護度状況（令和6年3月31日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男	0	1	4	2	3	10	3.70
女	0	2	21	28	23	74	3.97
計	0	3	25	30	26	84	3.94

※令和4年度 平均介護度 男 3.88 女 3.78 全体 3.79

④ 待機状況（令和6年3月31日現在）

	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	市外	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	24	0	1	10	38
女	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	35	0	0	5	45
計	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	5	0	59	0	1	15	83

(3) 利用者概要（ショートステイ）定員16名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	延利用者数	310	333	362	347	229	313	309	284	302	286	258	289	3,622
	平均(日)	10.3	10.7	12.0	11.1	7.3	10.4	9.9	9.4	9.7	9.2	9.2	9.3	9.9
R5	延利用者数	259	240	259	268	260	272	306	341	300	272	287	222	3,286
	平均(日)	8.6	7.7	8.6	8.6	8.3	9.0	9.8	11.3	9.6	8.7	9.8	7.1	8.9

※ 利用者平均介護度 令和4年度 2.50
令和5年度 2.70

2 特別養護老人ホーム楓林花の里南館

[施設種別] 介護保険法による指定介護老人福祉施設 [定員] 67名

特別養護老人ホームユニット型においては、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、地域社会の一員として健やかで、安らぎのある生活を送れる場を提供するとともに、多様な社会福祉ニーズに対応できるよう経営基盤の強化・安定化を図ることを目的としてつぎの事業を実施した。

- ・ 日常生活における食事・入浴・排泄の支援援助
- ・ 健康の維持管理・機能回復訓練
- ・ 個人の特性に着目した介護計画の作成、実践
- ・ 職員の資質向上のための各種研修への参加
- ・ 職員の育成・教育体制の強化
- ・ ユーザー評価の実施

(1) 職員の状況（令和6年3月31日現在）

① 職種別職員配置

	施設長	事務長	事務	ケアマネ	栄養士	看護職	相談員	介護職	清掃等	計
常勤	1			1	1	4	1	26		34
非常勤			1					10	1	12
計	1		1	1	1	4	1	36	1	46

※ 介護職（非常勤）のうち1名は派遣職員

(2) 入所者概要（特別養護老人ホーム）定員67名

① 月別入退所状況

※在籍者数は月末現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	1	0	1	1	1	2	1	2	2	2	3	17
退所	1	0	0	2	2	1	2	4	3	0	4	1	20
在籍	66	67	67	66	65	65	65	62	61	63	61	63	

※令和4年度 入所 年間23名 退所 年間18名

② 年齢別入所状況（令和6年3月31日現在）

年齢	男	女	計
64歳以下	0	0	0
65～69歳	1	0	1
70～74歳	1	1	2
75～79歳	1	3	4
80～84歳	3	8	11
85～89歳	4	18	22
90～94歳	3	15	18
95～99歳	0	4	4
100歳以上	0	1	1
計	13	50	63
平均年齢	84.1	88.3	87.5

※最高年齢 男 94歳 女 103歳

※令和4年度平均年齢 男 84.2歳 女 87.2歳 全体 86.6歳

③ 介護度状況（令和6年3月31日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男	0	1	6	4	2	13	3.54
女	1	5	26	14	4	50	3.30
計	1	6	32	18	6	63	3.35

※令和4年度 平均介護度 男 3.53 女 3.33 全体 3.37

④ 待機状況（令和6年3月31日現在）

	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	市外	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	21	0	1	6	32
女	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	27	0	2	6	40
計	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	6	0	48	0	3	12	72

3 デイサービスセンター楓林花の里

[施設種別] 介護保険法による指定通所介護施設 [定員] 1日 35名
 介護保険法による予防専門型通所サービス ※(令和5年7月より5名増)

介護保険に定める在宅サービスに含まれるデイサービスは、介護保険法の理念である在宅重視、自立支援という観点からも重要な役割を担う事業である。居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、機能回復訓練、日常生活上の介護により援助を行い、介護者の負担を軽減することを目的として事業を実施した。さらに安定した経営基盤とサービスの質を確保するべくつぎの事業を実施した。

- ・ 日常生活における食事・入浴等の支援援助
- ・ 健康の維持管理・機能回復訓練
- ・ サービス内容充実のためのユーザー評価

(1) 職員の状況(令和6年3月31日現在) ※介護職(非常勤)のうち1名は派遣
 ※運転手(非常勤)のうち1名は派遣

	相談員	介護職	看護職	運転手	計
常勤	1	4			5
非常勤		4	3	3	10
計	1	8	3	3	15

(2) 利用者概要

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	延利用者数	359	494	492	462	430	478	468	487	421	452	544	670	5,757
	平均(日)	13.8	19.0	18.9	17.7	15.9	18.3	18.0	18.7	16.1	18.8	22.6	24.8	18.5
R5	延利用者数	633	668	635	671	646	637	677	659	546	533	640	702	7,647
	平均(日)	25.3	24.7	24.4	25.8	23.9	24.5	26.0	25.3	21.0	22.2	25.6	27.0	24.6

※新型コロナウイルス感染症の影響による休業日数 令和元年度 18日
 令和2年度 11日
 令和3年度 7日
 令和4年度 6日

4 ケアハウス楓林花の里

[施設種別] 老人福祉法による軽費老人ホーム

[定員] 20名

ケアハウスが居宅であることを踏まえて、老化に伴う心身の変化や機能低下などの高齢者の特性に配慮した住み良い住居を提供し、入居者の自主性の尊重を基本として、入居者が明るく心豊かに生活できるよう配慮しながらつぎの事業を実施した。

- ・ 住居・食事サービスの提供
- ・ クラブ活動・レクリエーション等、娯楽の提供
- ・ 健康の維持管理・保健衛生対策

(1) 職員の状況（令和6年3月31日現在）

	事務	相談員	介護職	計
常勤	1	1	2	4
非常勤				
計	1	1	2	4

※事務1名は人材企画部長兼務

(2) 入居者概要

① 月別入居者状況

※在籍者数は月末現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5
女	16	16	15	15	15	16	15	15	15	15	15	15
在籍	20	20	19	19	19	20	19	19	20	20	20	20

② 区別入居状況（令和6年3月31日現在）

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂
0	0	0	1	0	0	0	0

熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	市外
0	1	1	0	1	12	0	1	3

③ 年齢別入居状況（令和6年3月31日現在）

年齢	男	女	計
64歳以下	0	0	0
65～69歳	0	2	2
70～74歳	0	1	1
75～79歳	0	3	3
80～84歳	3	3	6
85～89歳	0	2	2
90～94歳	1	3	4
95～99歳	1	1	2
100歳以上	0	0	0
計	5	15	20
平均年齢	86.8	82.1	83.3

※ 令和4年度 平均年齢 男 83.0歳 女 82.2歳 全体 82.6歳

5 楓林花の里居宅介護支援事業所

[施設種別] 介護保険法による居宅介護支援事業 [登録人数] 118 名

要介護者の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し、利用者の意向を尊重してサービスが効率的に提供されるようつぎの事業を実施した。

- ・ 訪問調査による利用者の実態把握
- ・ 介護認定に係る調査、申請の代行
- ・ 在宅介護に関する総合相談・助言
- ・ 介護計画（ケアプラン）の作成、及びサービス提供事業者との連絡調整

(1) 職員の状況

介護支援専門員 常勤3名

(2) 利用状況

① 年齢別登録状況（令和6年3月31日現在）

年齢	男	女	計
64歳以下	1	0	1
65～69歳	0	4	4
70～74歳	4	7	11
75～79歳	6	12	18
80～84歳	6	17	23
85～89歳	10	25	35
90～94歳	5	13	18
95～99歳	2	5	7
100歳以上	0	1	1
計	34	84	118
平均年齢	83.5	89.0	83.4

② 介護度状況（令和6年3月31日現在）

	事業対象者要 支援1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	11	11	8	3	1	0	34
女	44	15	14	4	2	5	84
計	55	26	22	7	3	5	118